

滋賀県の地震

令和 8 年(2026 年)8 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	1
(2)概況	1
(3)断面図	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	6
(2)概況	6

3 地震一口メモ

近畿地域の活断層の地域評価と主要活断層帯の改訂について	7
-----------------------------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」をお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

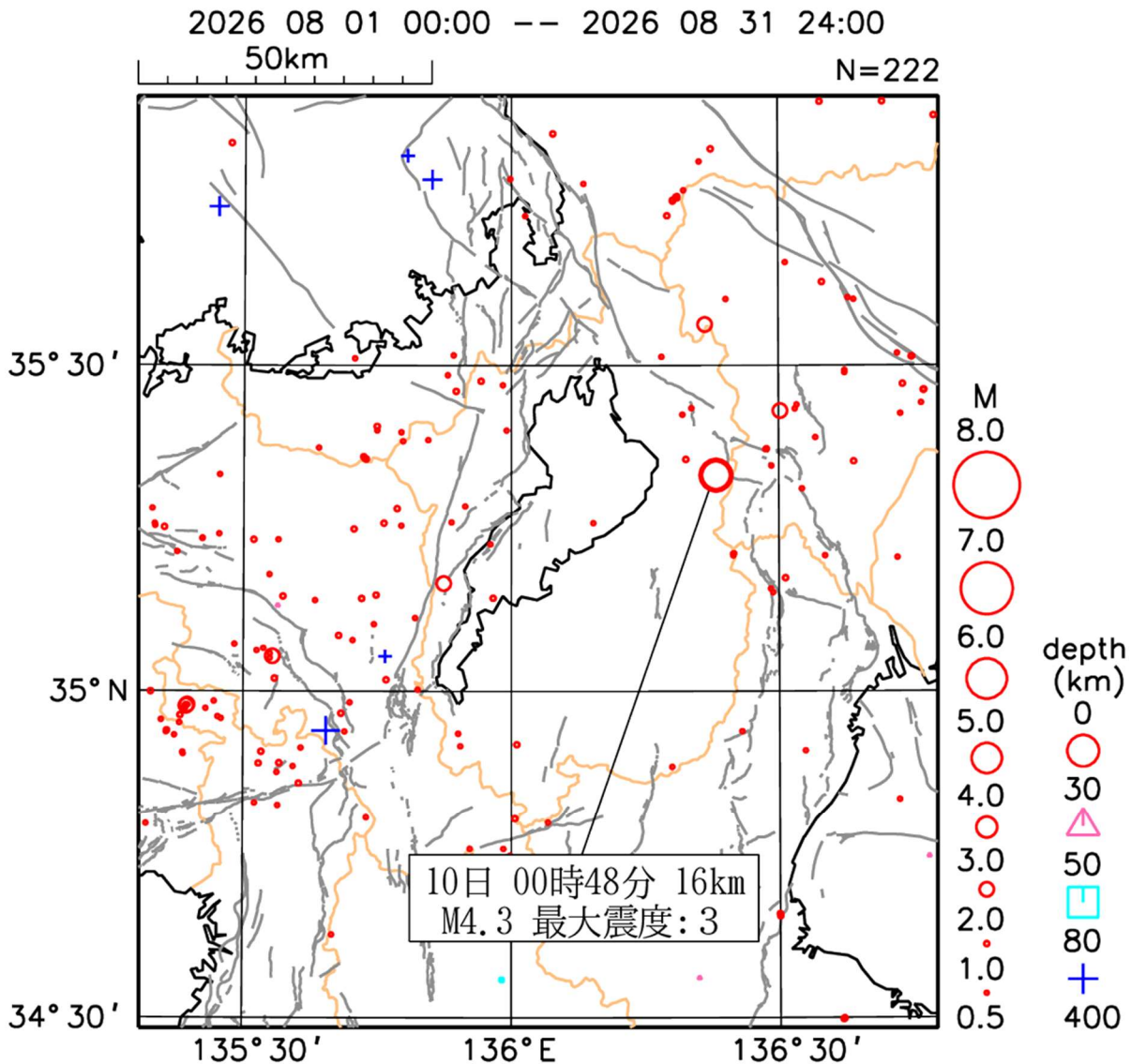
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和8年8月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模(マグニチュード)」、形状により「震源の深さ(km)」を表現しています。マグニチュード(M)とシンボルマークの大小、震源の深さ(depth)とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています(最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

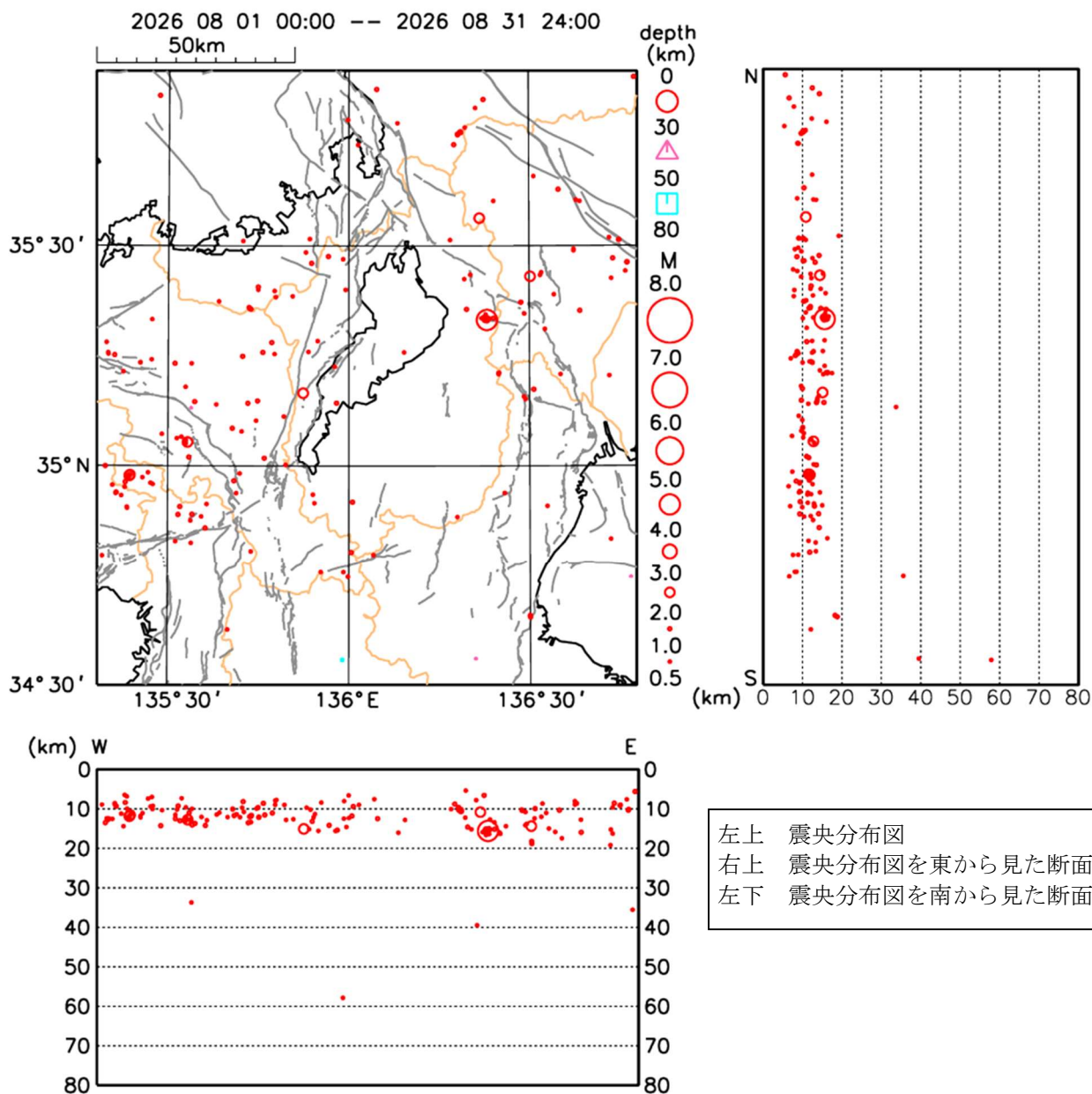
8月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は12回(前月9回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした(前月3回)。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

10日00時48分 滋賀県北部の地震(M4.3): 彦根市、長浜市、高島市、米原市、東近江市、豊郷町、多賀町で震度3、他12市町で震度2や震度1

23日02時00分 茨城県南部(図の範囲外)の地震(M5.9): 近江八幡市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
-------------------------	------	----	----	----	---------

2026年08月10日00時48分	滋賀県北部	35° 19.8' N	136° 22.9' E	16km	M4.3
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 3 : **彦根市城町**, 彦根市元町*, 長浜市公園町*, 長浜市八幡東町*, 長浜市宮部町*, 長浜市難波町*, 豊郷町石畑*, 多賀町多賀*, 高島市勝野*, 米原市長岡*, 米原市米原*, 東近江市躰光寺町*

震度 2 : 彦根市西今町*, 長浜市内保町*, 長浜市湖北町速水*, 長浜市木之本町木之本*, 長浜市余呉町中之郷*, 長浜市西浅井町大浦*, 甲良町在土*, 高島市今津町日置前*, 高島市マキノ町*, 高島市朽木市場*, 高島市新旭町*, 高島市安曇川町*, 高島市今津町弘川*, 愛荘町安孫子*, 愛荘町愛知川*, **大津市南小松**, **近江八幡市桜宮町**, 近江八幡市出町*, 近江八幡市安土町下豊浦*, 竜王町小口*, 野洲市西河原*, 東近江市上二俣町*, 東近江市池庄町*, 東近江市市子川原町*, 東近江市妹町*, 東近江市五個荘小幡町*, 東近江市八日市緑町*

震度 1 : 高島市朽木柏*, **大津市御陵町**, 大津市国分*, 大津市木戸消防分団*, 大津市南郷*, 大津市真野*, 草津市草津*, 守山市石田町*, 栗東市安養寺*, 滋賀日野町河原*, 野洲市小篠原*, 湖南市中央森北公園*, 湖南市石部中央西庁舎*, 湖南市中央東庁舎*, **甲賀市水口町**, 甲賀市甲賀町大久保*, 甲賀市土山町*, 甲賀市甲南町*, 甲賀市信楽町*, 甲賀市甲賀町相模*, **東近江市君ヶ畑町**, 東近江市山上町*

2026年08月23日02時00分	茨城県南部	35° 59.9' N	140° 05.7' E	68km	M5.9
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

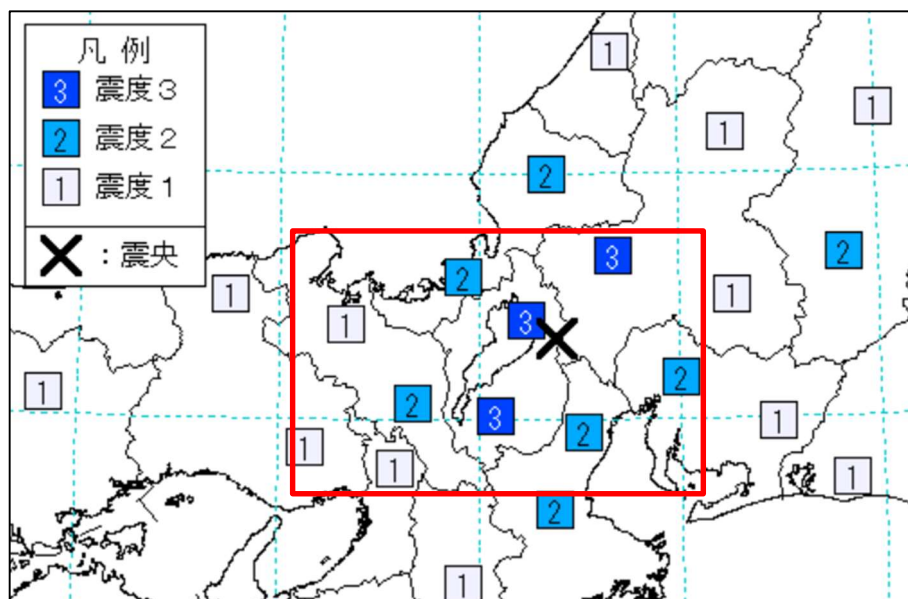
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1 : **近江八幡市桜宮町**

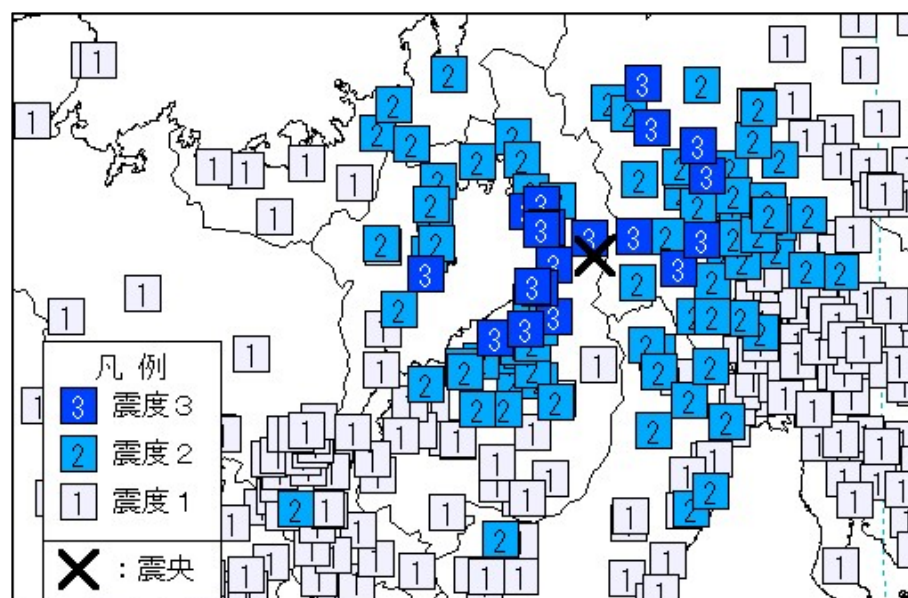
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

2026年8月10日00時48分 滋賀県北部 (M4.3)

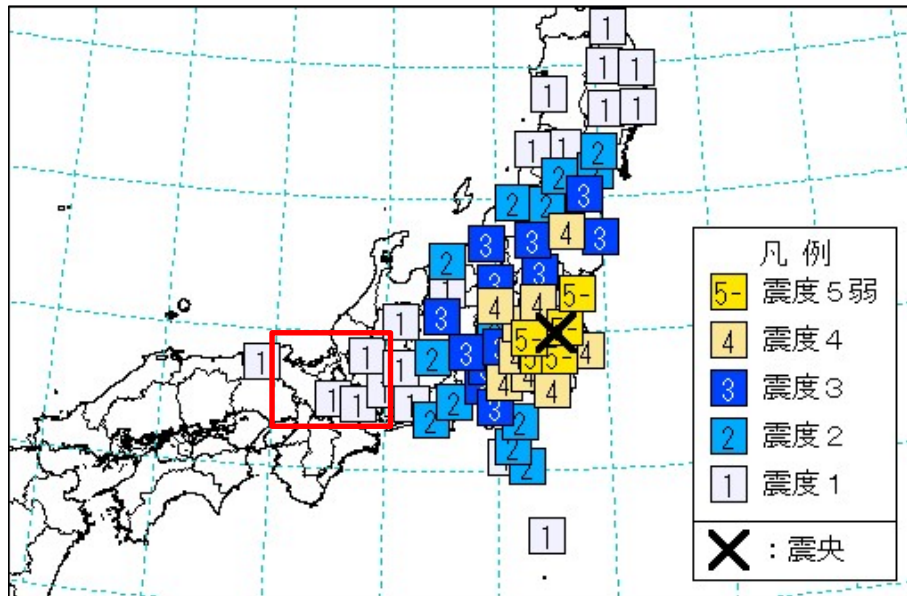


各地域の震度

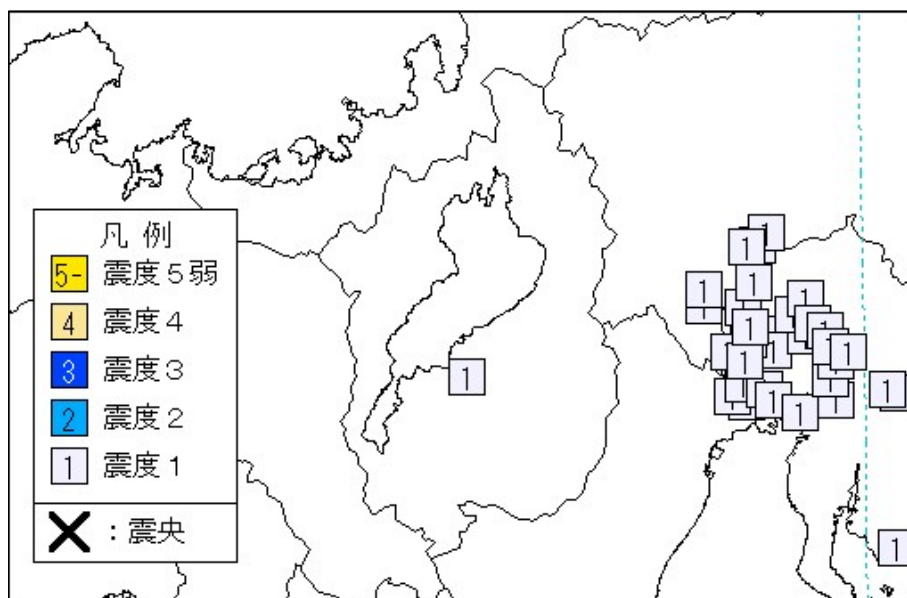


各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2026年8月23日02時00分 茨城県南部 (M5.9)



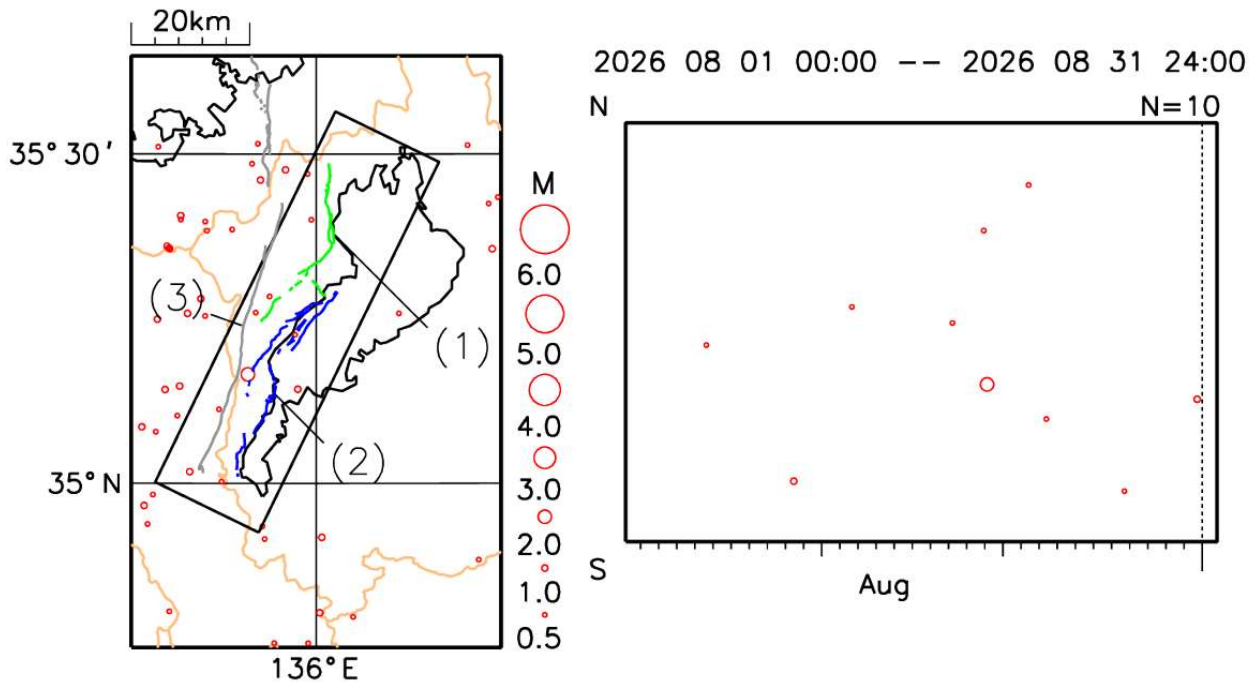
各地域の震度



各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 8 年 8 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。

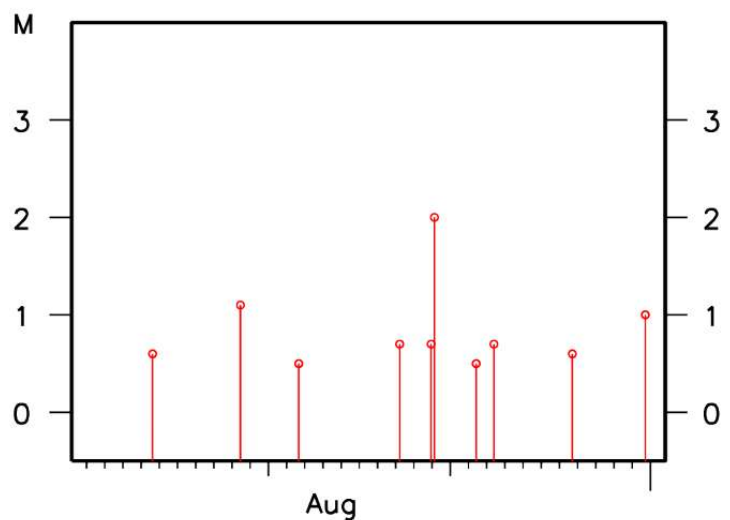
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部区間
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部区間
- (3) 三方断層帯・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市マキノ町石庭(いしば)から大津市三井寺(みいでら)町付近に至る断層帯です。全体として長さは約 55km と推定され、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、北部区間と南部区間の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、断層帯全体が 1 つの区間として同時に活動する可能性もあります。

琵琶湖西岸断層帯北部区間では、全体が 1 つの区間として活動する場合、M7.3 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内の発生確率は 3~14% と推定されます。

琵琶湖西岸断層帯南部区間では、全体が 1 つの区間として活動する場合、M7.4 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内の発生確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2026 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

8 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 1 回(前月 1 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

近畿地域の活断層の地域評価と主要活断層帯の改訂について

地震調査研究推進本部は、陸域及び沿岸海域に分布し、M6.8 以上の地震を引き起こす可能性のある活断層について、対象とする地域ごとに総合的に評価した活断層の地域評価を行ってきました。これまで、関東地域、中国地域、四国地域及び九州地域の地域評価が公表されていましたが、令和 8 年 8 月 28 日に近畿地域の地域評価が公表されました。

近畿地域の地域評価は、近畿北西部、近畿三角帯、紀伊半島の 3 つの区域に分けて、M6.8 以上の地震が今後 30 年以内に発生する確率が各区域で評価されています。これによりますと、近畿北西部は 30%、滋賀県のほとんどが含まれる近畿三角帯は 40%–60%、紀伊半島は 7%、近畿地域の全域では 50%–60%と評価されました（図 1）。

主要活断層帯（図 2）についても改訂されています。主な変更点は、滋賀県の活断層帯をピックアップしますと概要は次の通りです。琵琶湖西岸断層帯北部区間は南に断層が延長され、また、S ランク※¹から S*ランクになりました（表 1）。花折断層帯の旧中部区間は南部区間になりました。ランクは A ランクになりました。また、花折断層帯の旧南部区間および旧琵琶湖西岸断層帯南部区間に含まれていた膳所断層が、京都盆地–奈良盆地断層帯北部区間の一部として評価されました。ランクは A ランクになりました。浦底–柳ヶ瀬山断層帯は、甲楽城沖断層やウツロギ峠北方断層等が追加され、X ランクから S*ランクになりました（表 2）。A ランクだった旧鈴鹿西縁断層帯については、旧鈴鹿西縁断層帯から常安寺断層を副次的な断層として旧鈴鹿東縁断層帯と統合、その他の構成断層は削除、新たに鈴鹿山脈東縁断層帯として Z ランクと評価されました。頓宮断層は副次的な断層とされ、旧布引山地東縁断層帯西部と一括して布引山地東縁断層帯として評価されました。ランクは A*ランクになりました。

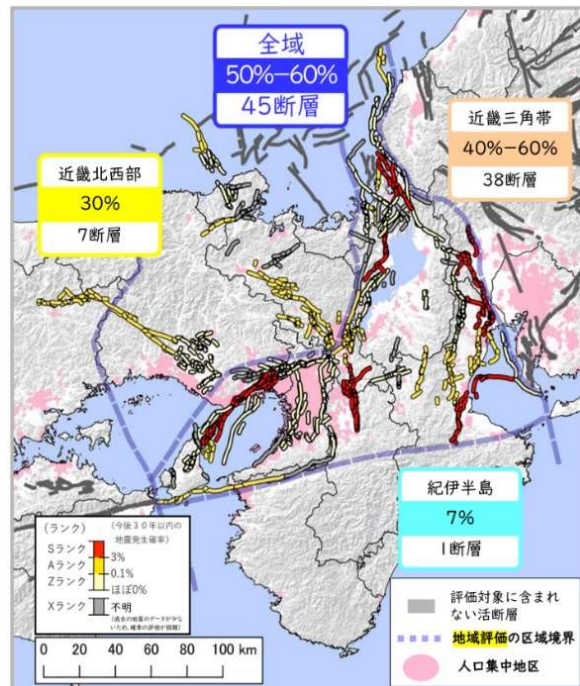


図 1 地域内で M6.8 以上の地震が 30 年以内に発生する確率

出典：「近畿地域の活断層の長期評価（第一版）概要」（地震調査研究推進本部）
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_gaiyo.pdf

※ 1：活断層における今後 30 年以内の地震発生確率が 3%以上を「S ランク」、0.1～3%未満を「A ランク」、0.1%未満を「Z ランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「X ランク」と表記している。地震後経過率※²が 0.7 以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。Z ランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。

※ 2：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると 1.0 となる。

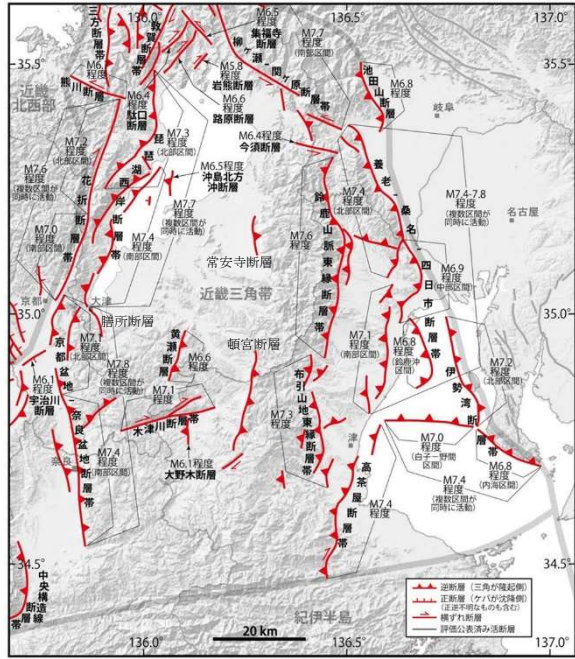
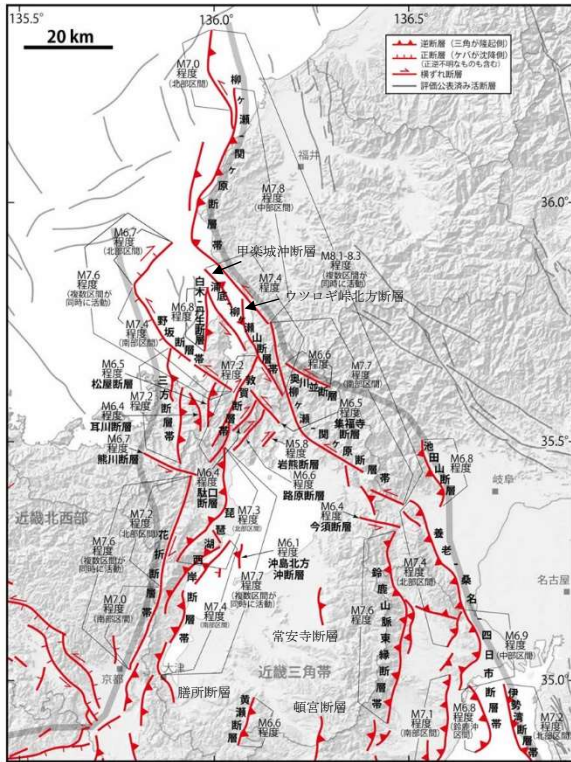


図2 近畿三角帯（北部）の活断層の特性と想定される地震の規模（左）、近畿三角帯（東部）の活断層の特性と想定される地震の規模（右）

出典：「近畿地域の活断層の長期評価（第一版）」（地震調査研究推進本部）（https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_honbun.pdf）に加筆

新しい評価			
活断層のくくり	評価単位区間	長さ 地震の規模 ランク	長さ 地震の規模 (連動)
琵琶湖西岸断層帯	琵琶湖西岸断層帯 北部区間	約29 km M7.3程度 S*ランク	約55 km M7.7程度
	琵琶湖西岸断層帯 南部区間	約35 km M7.4程度 Zランク	
	三方断層帯	約27 km M7.2程度 Zランク	—
三方断層帯・ 花折断層帯	花折断層帯 北部区間	約28 km M7.2程度 Xランク	約48 km M7.6程度
	花折断層帯 南部区間	約20 km M7.0程度 Aランク	
京都盆地－ 奈良盆地断層帯	京都盆地－ 奈良盆地断層帯 北部区間	約23 km M7.1程度 Aランク	約57 km M7.8程度
	京都盆地－ 奈良盆地断層帯 南部区間	約35 km M7.4程度 S*ランク	

改訂前の評価			
活断層のくくり (公表日)	評価単位区間	長さ 地震の規模 ランク	長さ 地震の規模 (連動)
琵琶湖西岸断層帯 (平成21年8月27日)	琵琶湖西岸断層帯 北部区間	約23 km M7.1程度 Sランク	約59 km M7.8程度
	琵琶湖西岸断層帯 南部区間	約38 km M7.5程度 Zランク	
	三方断層帯	約26 km M7.2程度 Zランク	—
三方・花折断層帯 (平成15年3月12日)	花折断層帯 北部区間	約26 km M7.2程度 Xランク	—
	花折断層帯 中部区間	約20 km M7.0程度 － ※	—
	花折断層帯 南部区間	約15 km M6.8程度 － ※	M7.3程度 A*ランク ※
京都盆地－ 奈良盆地断層帯南部 (奈良盆地東縁断層帯) (平成13年7月11日)	〔三方・花折断層帯 花折断層帯 南部区間〕		
	京都盆地－ 奈良盆地断層帯南部 (奈良盆地東縁断層帯)	約35 km M7.4程度 S*ランク	—

表1 既存の活断層帯の改訂・新たな活断層の評価 | 新旧評価の比較

出典：「近畿地域の活断層の長期評価（第一版）概要」（地震調査研究推進本部）から抜粋
（https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_gaiyo.pdf）

新しい評価				改訂前の評価			
活断層のくくり	評価単位区間	長さ 地震の規模 ランク	長さ 地震の規模 (連動)	活断層のくくり (公表日)	評価単位区間	長さ 地震の規模 ランク	長さ 地震の規模 (連動)
柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯・ 浦底-柳ヶ瀬山断層帯	柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯 北部区間	約19 km M7.0程度 Aランク	約127 km M8.1-8.3程度	柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯 (平成16年1月14日)			
	柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯 中部区間	約62 km M7.8程度 Zランク			柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯主部 北部区間	約48 km M7.6程度 Zランク	
	柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯 南部区間	約52 km M7.7程度 Zランク			柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯主部 中部区間	約12 km M6.6程度 Xランク	約100 km M8.2程度
					柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯主部 南部区間	約45 km M7.6程度 Xランク	
	浦底-柳ヶ瀬山断層帯	約35 km M7.4程度 S*ランク			浦底-柳ヶ瀬山断層帯	約25 km M7.2程度 Xランク	
鈴鹿山脈東縁断層帯	鈴鹿山脈東縁断層帯	約45 km M7.6程度 Zランク	—	鈴鹿東縁断層帯 (平成17年3月9日)	鈴鹿東縁断層帯	約34-47 km M7.5程度 Zランク	—
				鈴鹿西縁断層帯 (平成16年9月8日)	鈴鹿西縁断層帯	約44 km M7.6程度 Aランク	—
布引山地東縁断層帯	布引山地東縁断層帯	約30 km M7.3程度 A*ランク	—	頓宮断層 (平成16年9月8日)	頓宮断層	約31 km M7.3程度 A*ランク	—
				布引山地東縁断層帯 (平成16年4月14日)	布引山地東縁断層帯 西部	約33 km M7.4程度 A*ランク	—
高茶屋断層帯	高茶屋断層帯	約36 km M7.4程度 S*ランク	—		布引山地東縁断層帯 東部	約48 km M7.6程度 Zランク	—

表2 既存の活断層帯の改訂・新たな活断層の評価 | 新旧評価の比較

出典:「近畿地域の活断層の長期評価(第一版)概要」(地震調査研究推進本部)から抜粋
(https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_gaiyo.pdf)

地震調査研究推進本部HP「近畿地域の活断層の地域評価」

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/regional_evaluation/kinki-detail/

地震調査研究推進本部HP「地震発生確率」について解説します

https://www.jishin.go.jp/resource/column/column_24spr_p06/